

SENAの アクションカメラ Prism Tube



風景の「今」

思いがけずきれいな景色に出合ったら、プリズム・チューブをヘルメットから外して手で持って撮ってみよう。軽量、コンパクトなので手持ちでも安定して景色を撮ることができる

走行の「今」

走行中の動画をライダー目線で撮れるのがプリズム・チューブ。バイクではなくヘルメットに付けるため、バイクの進行方向に関係なく自分の見た景色が撮れる。さらに

走りながら流れる景色を見た驚きの声や、その時に思ったことのつぶやきを、そのまま映像に重ねて記録することも可能だ。このマイクで同録できる機能は、ツーリングルートを映像と声で解説したり、ベテランライダーがお手本となる走りを示しながらそのポイントを説明する、といったことにも活用できる



「今」を解説

プリズム・チューブの用途はバイクに限らない。ドローンの使い方やスポーツの動きなど道具の操作や方法を説明するのに、プリズム・チューブで撮った自分目線の映像は有効だ

※ 飛行場所は許可を得て撮影しています。



「声」をキーワードにした 新しいアクションカム

ブルートゥース・インターコム
のセナが、これまでとは少し趣を変えたアイテムを登場させた。それは「プリズム・チューブ」という名の通り、プレーンな筒状の形をしたアクションカムだ。

フルHD画質の動画が撮れるという点はほかのアクションカムと変わらないが、大きく違うのは「声が入る」「声で分かる」という点。カメラ本体にスマートに取付けられる専用のマイクとスピーカーをキットに同梱している。カメラの内蔵マイクとは別にこの専用マイクを使うことで、動画を撮りながら自分の声を同時に録音することが可能だ。この声は、これまでセナが培ってきたノイズリダクション技術により、クリアな音で記録が可能になる。

一方、付属のスピーカーからは録画のオンオフを知らせる音声案内が流れるため、耳でカメラの状態を確認できる。

この「声」をキーワードにしていることこそ、セナのアクションカムたるポイントだ。その意味でも、プリズム・チューブは、アクションカムの世界にまた新しい一石を投じる画期的なアイテムになることだろう。

人気の「モトブログ」に ズバリお勧めのカメラ

プリズム・チューブで撮った動画は、ただパソコンやタブレットで見ただけではもったいない。動画投稿サイトやSNSにアップロードして、みんなに見てもらおう。走行動画の場合、カメラの内蔵マイクが拾ったエンジンや排気音、風の音だけでなく、どうしても長時間見ていると飽きてくる。その点、マイクで自分の声も同時に記録できるプリズム・チューブなら、ツーリングルートを説明したり、飛び込んでくる美しい景色に驚く声がそのまま記録できたりと、走りながらにして立派な動画の「コンテンツ」ができるのだ。

もちろん、車載したカメラで撮った動画に後で声の説明をさらに入れるのは大変だ。走りながら生の声が入れば、撮った動画ファイルをもそのまま動画投稿サイトにアップしても十分楽しめるコンテンツになる。なにより走りながら見た景色に反応した自分の声の方が、



PRISM TUBE

価格：2万1384円
視野角：125度 録画時間：2時間
※ 満充電の状態から録画できる平均時間

これまでにアップロードされている動画も、市販のアクションカムに外部マイクを取付け、風切音対策をして撮っているようだ。しかし、風切音が抑えられるプリズム・チューブは、こうした工夫も必要ない。そういう意味でも、プリズム・チューブは、モトブログを楽しむのに最適なカメラだ。

ライブ感たっぷりだ。

ユーザーではこうした自分の声でいろいろな説明をしながら走る「MOTOVLOG(モトブログ(モト・ビデオ・ログの略))」が世界的に人気となっている。「モトブログ」のキーワードで検索してみれば、無数の面白いモトブログを見つけることができるだろう。

[メモリー取付け例]



マイクロSDカードは本体後部のネジ式キャップを外してスロットに着脱する。このキャップはスピーカー&マイク用USBケーブルを使う場合、専用のものに取り換えて使う

録画した動画をアップロード!



YouTube

<https://www.youtube.com/>

YouTubeがGoogleアカウントがあれば、誰でも動画が投稿できる。ページ右上の「アップロード」をクリックして開いたページに、動画ファイルをドラッグ&ドロップすればOK



スライドスイッチを前後させることで録画の開始、停止操作ができる。スイッチは筐体を一周するリング上で、グローブをはめた手でもオンオフ状態が分かりやすく操作しやすい



カメラを前から見てなるべく水平垂直が正しくなるように調整する。円筒形のため、カメラの上下が分かりにくい。スライドスイッチの赤い突起が真上になるようにするとい



カメラの上下方向の調整は、フレキシブルマウントの回転台を緩めて行う。あくまでもライディング時のヘルメットの角度を前提に角度を調整すること。思いのほか上向きになる